

## 司書の部屋 ～俳句×猫～

私の趣味は俳句！ということで、度々すがもらいぶらり誌上で俳句についてのコラムを書かせていただいております。俳句はたったの17音。世界で一番短い詩であり、誰にでも詠めるようでありながら奥深い、とても魅力的な文芸です。この面白さを少しでも多くの人に知っていただきたいと思っています。

今回は猫を詠んだ俳句をご紹介します。猫はいくつかの季語になっており、俳句の題材としても好まれるものです。例えば「恋猫（春）」「子猫（春）」「かじけ猫（冬）」「寵猫（冬）」など、猫の一生と四季を重ね合わせて句を詠みます。猫ってかわいいだけではなくて、どこか切ない、詩心をくすぐる生き物ですよ。

「吾輩は猫である」の夏目漱石も、もちろん猫の句を詠んでいます。

### 恋猫の眼ばかりに瘠せにけり 漱石

現代の都会ではなかなかお目にかかれない、繁殖期の猫の壮絶な姿を描いた一句です。雄猫でしょう。飲まず食わずで恋をして、どんどん瘠せてはいくものの、眼だけはギョロリとあたりを見渡している。猫と暮らす人でなければ、こうは詠めないのではないのでしょうか。

### 子猫ねむしつかみ上げられても眠る 日野草城

もう、文句なしに可愛い句です。子猫ってどこに骨があるのっていうぐらいにやわらかいの、さらにくったりと眠っている。子猫の高い体温までも想像させられます。

ご紹介しきれないほど、猫を詠んだ名句は沢山あります。今回特集コーナーに関連図書を集めましたので、ぜひご覧ください。

そして、猫で一句浮かんだならば、是非年末恒例（！？）巣鴨図書館俳句ポストにご応募くださいね（M）

#### おすすめ本

『猫の恋』  
ねじめ正一/俳句 田島征三/絵 芸術新聞社  
『猫は髭から眠るもの』  
堀本裕樹/編著 幻冬舎  
『俳句・短歌・川柳とともに味わう猫の国語辞典』  
佛洵健悟/編 小暮正子/編 三省堂  
『夏目漱石句集』  
夏目漱石/著 永田竜太郎/編 永田書房

## 巣鴨・大塚界隈 その1 巣鴨体育館



第1回目は、  
巣鴨図書館お隣の  
巣鴨体育館を  
紹介します。

「巣鴨体育館」は東京都豊島区のスポーツ施設です。地下には25m×11mが5コースあるプール、2階のアリーナにはバレーボール1面、バスケットボール1面、バドミントン4面、卓球16台がある競技場があります。

1階にはトレーニングルームがあり、有酸素マシン13台、ウェイトマシン8台、トレーニングベンチ、ダンベルセット、ストレッチマット、ストレッチポール、スリムディスク、バランスボールと、充実した設備が整っています。それだけでなく、成人や子どもに向けた水泳教室やスクールがあるので、スポーツが苦手な方や初心者の方でも、安心して利用できます。また、多目的室で行われるレッスンプログラムは、ヨガ、太極拳、バレエやダンスなど多種多様で、とても魅力的です。

開放的で明るい巣鴨体育館ですが、「環境にやさしい電力」を使っている施設でもあります。これは、太陽、風、水、地熱、バイオマスなど、自然の力を利用した、環境にやさしい再生エネルギーのことです。スポーツを楽しみながら、地球にもやさしくできる体育館。まだ行かれたことが無い方は、是非利用してみてください。（O）

#### 編集後記

プチリニューアルした「すがもらいぶらり」楽しんでいただけましたでしょうか？  
一服の清涼剤のような紙面を目指していきます。ご愛読を！（M）

## すがもらいぶらり

2025年5月1日発行（年6回2・3・5・7・9・11月の1日発行）

新年度が始まり、1カ月経ちました。今年度のすがもらいぶらりは2カ月に1回でお届け予定です。今年度は、巣鴨・大塚界隈の施設紹介や、読者参加型の企画等を考えております。また、各コラムに関わるおすすめ本も紹介していきます。お楽しみに。

4月27日～5月13日は「こどもの読書週間」です。巣鴨図書館でも4月27日に「おそとでわくわくおはなし会」を開催しました。公園のベンチなど外での読書も気持ちいい季節になりました。是非、お気に入りの1冊を手にとり、読書を楽しんでください。

（館長）

すがもらいぶらり企画

募集！

あなたの推し本の

忘れられない1冊

すがもらいぶらり2025年第2号(7月1日発行)ではみなさんの忘れられない1冊を募集し、紹介します。〆切は5月22日です。詳細は、応募用紙をご覧ください。

#### 「すがもがーでん 近影」



ごぼう

菜の花とブロッコリー



# 図書館で知る 【万国博覧会】

こちらのコーナーでは、毎号テーマに沿った気になる本・おすすめの本をご紹介します。

第1回目のテーマは、4月13日から開催中の大阪万博(EXPO'2025)にちなみ、「万国博覧会」です。

万博と  
意外なものが…

『近代万博と茶 世界が驚いた日本の「喫茶外交」史』  
吉野亜湖・井戸幸一/共著 淡交社  
『万博からみた音楽史』  
井上さつき/著 中央公論新社  
『万国博覧会 知られざる歴史とSDGsとのつながり』  
稲葉茂勝・渡邊優/著 ミネルヴァ書房  
『万国博覧会と「日本」アートとメディアの視点から』  
暮沢剛巳 他/著 勁草書房

＜20年ぶりに日本で開催される国際博覧会＞

1970年に日本、そしてアジアで最初で開催された大阪万博(EXPO'70)は、日本の高度成長期を象徴するような大きな盛り上がりを見せたイベントでした。

そして、時を経て2025年、大阪で万博が開催されています。今回のテーマは、

「いのち輝く未来社会のデザイン」

SDGsを2030年までに達成するための、技術、プラン等を盛り込んだ見ごたえのある展示に、足を運んでみてはいかがでしょうか？

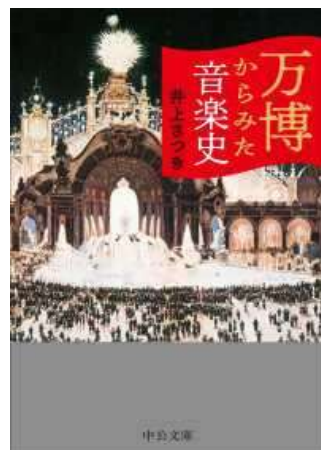
とは言え、そんな時間は無いという方々のために、これまでの万博の歴史やトピック等を知ることができる本を集めてみました。

気になる本がありましたら、是非手にとってみてください。

(M)

万博ってなに？  
歴史とその意味

『万博入門 新世代万博への道』  
平野暁臣/著 小学館  
『万国博覧会の二十世紀』  
海野弘/著 平凡社  
『航西日記 パリ万国博覧会見聞録』  
渋沢栄一・杉浦護/著 大江志乃夫/訳 講談社  
『大阪万博が日本の都市を変えた』  
吉村元男/著 ミネルヴァ書房  
『地上最大の行事 万国博覧会』  
堺屋太一/著 光文社



はみだしコラム ～万博の思い出～

図書館スタッフの間で、万博の話をしていたら、世代により、さまざまなエピソードが出てきました。

「愛知夢博」のパスポートを買って通っていたという人、(私の中ではつい忘れそうになってしまう)「つくば万博」もあったよ～という人、それぞれの思い出がありました。

私は、行って見たかったけれど行けなかった1970年の大阪万博が何よりも印象に残っていて、数十年経って見た「太陽の塔」に、幼いころの思い出を呼び戻された気がしました。(M)

